

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスSA-N-PO庚午教室（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	R8 年 1 月 6 日 ～ R8 年 1 月 3 1 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	R8 年 1 月 6 日 ～ R8 年 1 月 2 0 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	R8 年 2 月 5 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験年数の浅い職員が多いが、職員一人一人が「学びたい」という気持ちを強く持ち、様々な視点やとらえ方でこどもの支援にあたることができている。	一人で考えるのではなく「チーム」で考えるようにしていること、またそれぞれが自由に自分の思いを発信できるようにしているため、柔軟な考え方や自由な発想で活動内容を考えることができる。	ミーティングでどんな取り組みが良かったか、また、その取り組みによってこどもがどんな風に変化したのかを話すことによって、職員も「できた！」の積み重ねで自信を持つことができるようにする。
2	法人内には放課後等デイサービス事業、相談支援事業、訪問看護事業や訪問介護事業などの事業所もあり、困ったときに相談したり、連携の取れる存在が多数ある。経験豊富な多職種の方の多様な視点、知識、情報に触れることで職員もより広い視野を持ち、深くこどもを理解しようすることができる。	研修や会議の場で情報を共有し、異なる職種の方の知識や経験に触れる機会をもつようにしている。	管理者同士のつながりだけではなく、職員一人一人が深くつながりを持てるようにする。法人内の研修など積極的に関わりを持てる機会を作るようにする。問題を事業所内で抱え込むのではなく、法人内で解決できるような仕組み作りをしていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	研修の機会の確保をしてはいるがまだまだ不十分である。法人内の研修については計画中であるため、現在は外部の研修に参加するしかない。そのため時間が限られていたり、日程が合わないこともある。	「学びたい」という意欲は持っているが、実際に何から学んだらよいのか、学んだことをどう生かしたらよいのかがかかっていない部分がある。また、営業日の関係から研修の機会の確保（調整）が難しい。	職員が何を学びたいと思っているのかを明確にし、みんなで学ぶ時間を確保する。また、学んだことを話し合う場を設け、実際の支援に生かせるようにして、学んだことが職員の力になるようにする。一人一人の職員のスキルアップは事業所全体の人材育成にもつながる。法人内の研修を実現できるようにする。
2	担当者会議には参加するようにしており、学校や保育園の先生や相談員の方と連携を取っているが、その他の関係機関の方との連携が取れているとは言い難い状況である。	お声がけをいただいて担当者会議や研修に参加している。自らが積極的に連携を取ろうと関係機関の方と積極的に関わっていると言えない。また、会議に出席する職員も限られている。	自立支援協議会に積極的に参加する、地域の方々を招待するようなイベントを行うなど、まずは地域に広く知っていただくこと。その中で、保育園や幼稚園、児童館などどのような風に連携を取ることが大切なのかを模索していく。
3			